

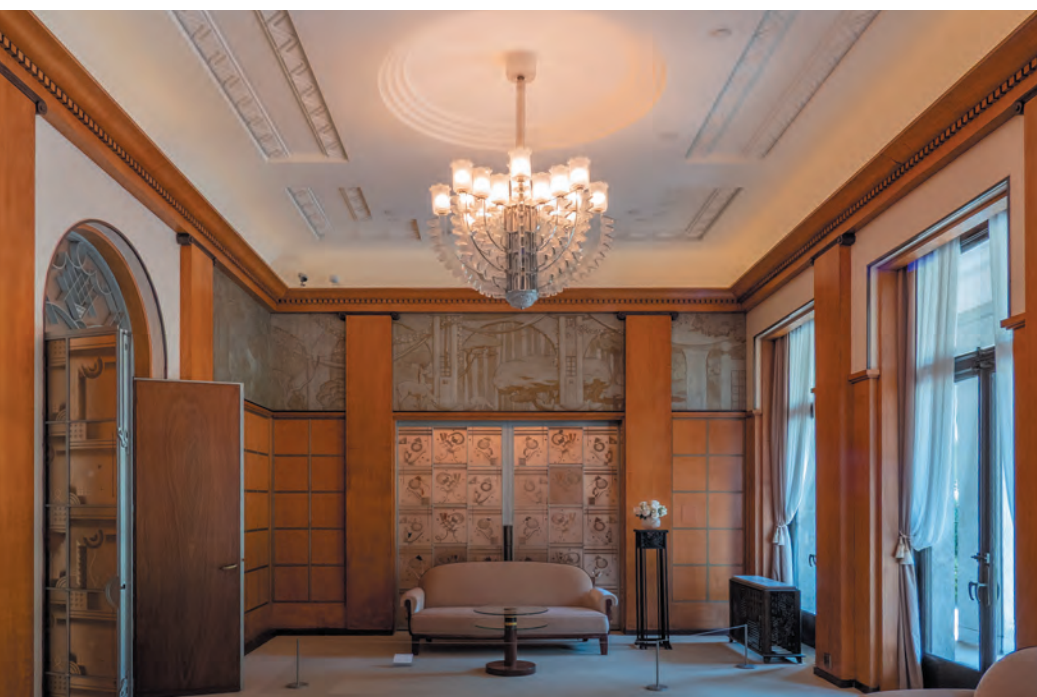
東京都庭園美術館本館 (旧朝香宮邸)

DATA

名 称	東京都庭園美術館本館（旧朝香宮邸）
所在地	東京都港区白金台 5-21-9
完 成	昭和 8 年
設 計	宮内省内匠寮工務課



ラパンによる
デザインの
「香水塔」



大客室。アール・デコの集大成
とされる最も重要な空間である



白、茶、黒の大理石が美しい第一階段

旧 白金御料地の一角に立つ東京
都庭園美術館本館。

その前身に当たるのが、昭和8年
(1933年)に完成した旧朝香宮
邸である。

旧朝香宮邸は、フランスに滞在中、
当時全盛期であった「アール・デコ」
(直線や記号、幾何学的模様で構成
されたデザインを特徴とする装飾様
式)に魅了された朝香宮夫妻が、そ
のデザインを積極的に取り入れるこ
とにより誕生した。

建物の全体設計は、宮内省内匠寮
工務課が担当。主要な部屋の内装設
計は、朝香宮自らが依頼をしたフラ
ンス人装飾芸術家アンリ・ラパンが
担当した。

その他にも、ガラス工芸家のルネ・
ラリックやマックス・アングラン、
鉄工芸家のレイモン・シユブなど、

正面玄関。ラリックによるデザインのガラススレリーフ扉と、宮内省内匠寮の大賀隆が手がけた全面モザイク床が客を迎える



市松模様の人造大理石の床が印象的な「ウインターガーデン」



アール・デコを代表する芸術家達の作品が建物を彩っている。

建物の外観は、直線を基調とする幾何学的リズムと簡潔さが、アール・デコの合理的な美しさを醸し出している。

正面玄関では、ルネ・ラリックがデザインした、翼を広げる女性像を型押ガラス製法で表現したガラススレリーフ扉が来訪者を迎える。足元の全面モザイク床と相まって、建物全体のアール・デコの芸術を象徴している。

大客室は、アール・デコの集大成とされる最も重要な空間だ。ルネ・ラリック作のシャンデリア、マックス・アングラン作のエッチング・ガラス扉、レイモン・シユブ作の扉上部を飾る半円形装飾など、目に留まるすべてが美術作品といえる完成度を誇る。

その他にも、3色の大理石で手すりや腰壁などを彩る第一階段や、市松模様の床が印象的な温室空間「ウインターガーデン」など見どころは多い。

この建物は、朝香宮が皇籍を離脱後、首相公邸、迎賓館等に使用されたが、昭和58年に東京都庭園美術館として開館。平成27年（2015年）に国の重要文化財に指定された。●